

令和7年度以降入学者

生物機能分子化学教育コース

凡例	科目区分	コア科目	アドバンス科目	課題プロジェクト演習科目	演習科目	特別研究科目
再掲は薄色で表示		コア科目	アドバンス科目	課題プロジェクト演習科目	演習科目	特別研究科目

学修目標		修士1年				修士2年				博士1年		博士2年		博士3年						
区分	修士課程	博士課程	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
D 実践	D-2. 複眼的な視点を有し、多様な問題解決法を提案することができる。	D-2. 複眼的な視点を有し、多様な斬新な問題解決法を提案することができる。			生物資源環境科学特論(1)		生物機能分子化学特別研究第二(6)			生物機能分子化学特別研究第二(6)	生物機能分子化学特別演習(5)									
	D-1. 学際的知識を社会に還元する意欲を有する。	D-1. 先進的・学際的な知識を社会に還元する能力を有する。			生物資源環境科学特論(1)						インターンシップ(2)									
			インターンシップ(1)								インターンシップ(2)									
C-2 統合・創造能力(評価・創造)	C-2. 現代科学、特に生命科学関連の様々な現象についての深い理解に基づいて問題点を見出し、生物学・化学の知識を統合して導かれた学際的知識を、科学の方法と論理的思考方法を駆使して、研究・開発に利用したり、実問題の解決策を提案することができる。	C-2. 現代科学、特に生命科学関連の様々な現象についての深い理解に基づいて問題点を見出し、生物学・化学の知識を統合して導かれた学際的知識を、科学の方法と論理的思考方法を駆使して、研究・開発、実問題の発見・解決、及び新分野の開拓に利用できる。	修士論文				博士論文													
			生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)		生物機能分子化学特別実験(2)									
					生物機能分子化学演習第一(2)				生物機能分子化学演習第二(2)		生物機能分子化学特別実驗(2)									
			国際演習技法(2)								国際交流演習I(1)									
			国際交流演習I(1)								国際交流演習II(1)									
			国際交流演習II(1)								国際交流演習III(1)									
			国際交流演習III(1)								国際交流演習IV(1)									
国際交流演習IV(1)								プロジェクト演習(2)												
C-2 統合・創造能力(評価・創造)	C-2. 現代科学、特に生命科学関連の様々な現象についての深い理解に基づいて問題点を見出し、生物学・化学の知識を統合して導かれた学際的知識を、科学の方法と論理的思考方法を駆使して、研究・開発に利用したり、実問題の解決策を提案することができる。	C-2. 現代科学、特に生命科学関連の様々な現象についての深い理解に基づいて問題点を見出し、生物学・化学の知識を統合して導かれた学際的知識を、科学の方法と論理的思考方法を駆使して、研究・開発、実問題の発見・解決、及び新分野の開拓に利用できる。			生物機能分子化学プロジェクト演習(2)															
					比較免疫学特論(1)※隔年開講				比較免疫学特論(1)※隔年開講											
					植物生理・生化学特論(1)※隔年開講				植物生理・生化学特論(1)※隔年開講											
					植物栄養生理学特論(1)※隔年開講				植物栄養生理学特論(1)※隔年開講											
				プログラム化学工学特論(1)※隔年開講														生物機能分子化学特別講義(5)		
C-1 専門的能力(適用・分析)	C-1-1. 化学反応・生物応答と生物反応を業務に必要なレベルで理解し、新規の開発に利用できる。	C-1-2. 化学反応・生物応答と生物反応を業務に必要なレベルで理解し、新分野の開拓に利用できる。	生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)		博士論文									
					生物有機化学特論(1)※隔年開講				生物有機化学特論(1)※隔年開講											
					生物物理化学特論(1)※隔年開講				生物物理化学特論(1)※隔年開講											
					遺伝情報発現制御機構特論(1)				遺伝情報発現制御機構特論(1)											
			海洋生命化学特論(1)※隔年開講				海洋生命化学特論(1)※隔年開講													
	修士論文								博士論文											
	生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)													
	国際交流演習I(1)								国際交流演習I(1)											
	国際交流演習II(1)								国際交流演習II(1)											
	国際交流演習III(1)								国際交流演習III(1)											
国際交流演習IV(1)								国際交流演習IV(1)												
演習技法I(1)																				
演習技法II(1)																				
C-1-2. 実験や計算の結果を解析・評価して、第三者評価に耐える形で解説できる。	C-1-1. 実験や計算の結果を解析・評価して、第三者に評価される形で解説できる。		修士論文								博士論文									
			生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)											

B 知識・理解	B.化学・生物学に関する基礎的知識を理解し、説明できる。	B.化学・生物学に関する基礎的・専門的知識について、新分野の開拓に応用できる程度に深く理解し、説明することができる。	生物機能分子化学Ⅰ(1)																	生物機能分子化学特別講究(5)			
			生物機能分子化学Ⅱ(1)																				
			生物機能分子化学特論第一(1・隔年)																				
			生物機能分子化学特論第二(1・隔年)																				
A 主体的な学び・協働	A-2.自分の考えを相手に正しく伝えるための情報処理能力、コミュニケーション能力を涵養し、周囲と協調し、共同して問題解決にあたることことができる。	A-2.自分の考えを相手に正しく伝えるための情報処理能力、コミュニケーション能力、教育力、指導力を涵養し、リーダーとして問題解決にあたることことができる。																	修士論文	国際演示技法(2)			
																						演示技法Ⅰ(1)	
																							演示技法Ⅱ(1)
																							ティーチング演習(2)
																							生物機能分子化学特別演習(5)
	A-1.自然科学、特に生物と生物系有用物質に関する非専門領域を含む幅広い学問分野に関心を持って、自ら進んで問題に取り組む、解決し、新分野の開拓に貢献することができる。	A-1.自然科学、特に生物と生物系有用物質に関する非専門領域を含む幅広い学問分野に関心を持って、自ら進んで問題に取り組む、解決し、新分野の開拓に貢献することができる。	生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第一(6)		生物機能分子化学特別研究第二(6)														博士論文		
			インターンシップ(1)																				
			生物機能分子化学Ⅰ(1)		生物機能分子化学演習第一(2)				生物機能分子化学演習第二(2)														
			生物機能分子化学Ⅱ(1)																				
			生物機能分子化学特論第一(1・隔年)																				
生物機能分子化学特論第二(1・隔年)																							
生物機能分子化学特論(E科目)(1・隔年)																							
区分	修士課程	博士課程	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
	学修目標		修士1年				修士2年				博士1年		博士2年		博士3年								
課程の時期区分																							
アセスメント・プラン			学生のアンケート調査による「学生の自己評価」と指導教員の「評価」をつきあわせ、学生の学習到達学修目標の達成度を判定														学生のアンケート調査による「学生の自己評価」と指導教員およびアドバイザー委員の「評価」をつきあわせ、学生の学修目標の達成到達度を判定						